

学びのストーリー

「ずうっと、ずっと、大すきだよ」は、どんなお話かな。①②	
全文通読（範読）① 登場人物・内容確認①	・エルフと「ぼく」が出てきたよ。 ・エルフは、死んでしまったね。かわいそう。 ・エルフはなんで死んじゃったのかな。 ・「年を取った」ってどういうことなのだろう。 ・年を取ると死んでしまうのかな。 ・「いくらか気持ちが楽だった」ってどういうことだろう。 ・隣の子から子犬をもらわなかったのはなんでかな。 ・なんで隣の子にバスケットをあげちゃったんだろう。 ・なんで毎日「大好きだよ。」って言ってあげていたのかな。 ・兄さんや妹は「大好きだよ。」ってエルフに言ってなかったよ。ぼくだけが言っていたね。
感想交流② 学習問題作り②	
「ぼく」はエルフのことをどう思っていたのかな③④ ・「世界で一番すばらしい犬です。」って書いてあったよ。 ・「ぼく」とエルフはいつも一緒だったね。 ・寝る時も「ぼく」の部屋で一緒に寝ていたよ。仲良しだね。 ・「ずうっと大好きだよ」っていつも言っていたよね。 ・「ぼく」以外の家族は「大好きだよ」っていっていなかったよ。それでもぼくは言っていたよね。	「いくらか気持ちが楽だった」ってどういうことだろう⑤ ・大好きなエルフが死んでしまって悲しいはずだよ。楽なのかな。 ・「ぼく」は毎晩エルフに「大好きだよ。」って言っていたから楽だったのだよ。 ・家族はだれも「大好き」って言ってあげていなかったよ。「ぼく」だけが言っていたよ。
「ぼくが隣の子から子犬をもらわなかったのはなんでかな⑥ （本時） ・エルフのことが、まだ好きだからだよ。 ・エルフと一緒にたくさん遊んだ思い出があるからだね。 ・もらったら、エルフがかわいそうって思ったんじゃない。 ・「エルフは気にしないって分かっていたけど」って書いてあるよ。もらってもよかったのではないかな。 ・自分だったらもらうかもしれないな。	「ぼく」が隣の子にバスケットをあげたのはなんでかな⑦ ・エルフが死んじゃって、もう使わないからだよ。 ・隣の子が子犬を飼っているからだと思う。 ・「ぼく」よりも隣の子の方が小さい子だから、優しくしてあげようって思ったんじゃないかな。 ・あげた方が、エルフも喜ぶって思ったのだよ。 ・自分だったらあげたくないな。

「ずうっと、ずっと、大すきだよ」を読んで、一番心に残ったことを伝え合おう⑧
・「ぼく」がエルフに「ずうっと大好きだよ」って言ってあげるところが好きだよ。 ・「ぼく」とエルフと一緒に寝ているところが好きだな。 ・「ぼく」が隣の子にバスケットをあげたところがいいなって思ったよ。

願う子どもの姿

- ・叙述や挿絵をもとに、場面の様子や登場人物のしたことを具体的に想像する姿。
- ・考えたことを友達に伝えようとする姿。
- ・友達の考えを聞こうとする姿。

授業デザイン

自己調整

友達の、どうしてかなと思ったところから学習を進める。

響きあう

話し合いの素地を整える。

- ・みんなに向かって話をする。
- ・話している友達のほうを見て聞く。
- ・友達の考えと似ているところや、同じところ、違っているところに気が付く。

手立て

ペットを飼っている経験を出し合い、お話の世界に入りやすいようにする。

高め合う

友達の意見を聞く前と聞いた後で自分の考えを書き、考えの変容や深まりに気が付けるようにする。

手立て

読んで感じたことや、そのわけを話すことで、お話を楽しめるようにする。

手立て

音読学習を継続することで、物語への理解を深められるようにする。

手立て

絵本を使うことで、教科書にない挿絵からも読み取ることができるようにする。

手立て

ぬいぐるみを使って動作化を行い、お話の世界に入り込めるようにする。

手立て

「ぼく」がエルフのことが大好きだとわかるところに線を引き、叙述を基に考えられるようにする。

高め合う

振り返り際には「だれの」「どのような」考えになるほどと思ったのかを書くようにする。

手立て

毎時間の始めにペアで考えを伝え合う時間をとり、自分の考えを伝え合う機会を増やす。

評価規準・評価方法

- 【思考・判断・表現】
- ・「ずうっと、ずっと、大すきだよ」を読み、内容の大体をとらえている。（発言・記述）
- 【学びに向かう力・人間性】
- ・「ずうっと、ずっと、大すきだよ」を進んで読もうとしている。
- 【知識・技能】
- ・語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（音読）
- 【思考・判断・表現】
- ・物語にはまとまりがあることを理解し、場面の様子に着目して登場人物の言動を想像している。（発言・記述）
- 【知識・技能】
- ・読んで感じたことを、楽しみながら伝え合っている。（音読・発言）

